

**Iwatani**

# 2023年3月期第2四半期 決算説明資料

2022年11月16日  
岩谷産業株式会社

〔証券コード 8088〕

（見直しに関する注意事項）  
将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。  
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

# 目次

## 1. 2023年3月期第2四半期 決算実績

- 決算ハイライト
- 連結経営成績（増収分析）
- 連結経営成績（増益分析）
- 連結経営成績（セグメント別）
- セグメント別営業利益分析
- 貸借対照表（連結）
- キャッシュ・フロー計算書

## 2. 2023年3月期通期業績予想

- 通期業績予想
- セグメント別見通し
- 株主還元について

## 3. 成長戦略

- 中期経営計画PLAN23の進捗
- PLAN23における投資実績
- 「脱炭素社会の実現」に向けた取り組み

## ※ 統合報告書発行

# 2023年3月期第2四半期 決算実績

# 2023年3月期 第2四半期 決算ハイライト

Iwatani

▶ 対前年で増収・増益となり、売上・全ての利益項目で過去最高を更新。

## 2023年3月期第2四半期 決算概要

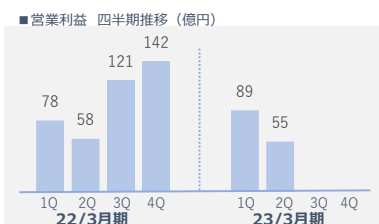
- 売上高は、LPガス輸入価格が高値で推移したことに加え、各種市況上昇への対応を着実に進め、全セグメントで増収。
- 利益面は、LPガス市況要因が対前年マイナスとなったものの、主力商品の販売が堅調に推移したこと等により増益。
- トキコシステムソリューションズ(株)・東京ガスエネルギー(株)の株式取得。資金として、200億円の社債を発行。
- 通期業績予想を上方修正。(11/9発表)

**売上高** 4,132億円 前年同期比 +1,162億円 (+39.1%)

**営業利益** 144億円 前年同期比 +8億円 (+6.0%)

**経常利益** 184億円 前年同期比 +19億円 (+11.6%)

**四半期純利益** 123億円 前年同期比 +20億円 (+19.5%)



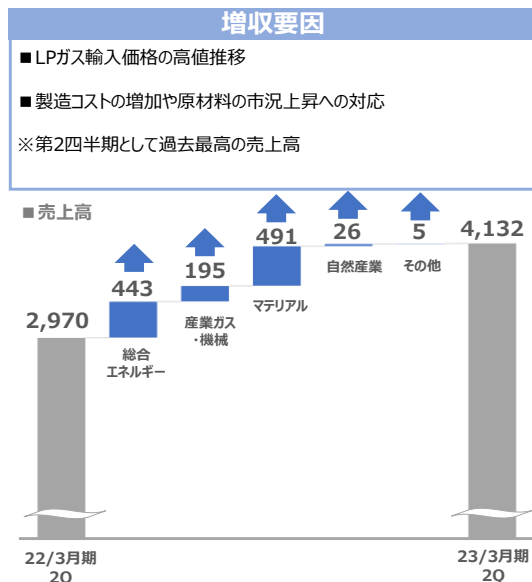
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

本中間決算は、対前年で増収・増益となり、第2四半期として、過去最高の売上高、利益となりました。

# 連結経営成績（増収分析）

	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額 (増減率)
売上高	4,132	2,970	+1,162 (39.1%)
売上総利益	981	870	+110 (12.7%)
営業利益	144	136	+8 (6.0%)
営業外損益	39	28	+11 (38.5%)
経常利益	184	165	+19 (11.6%)
市況要因を除く 経常利益	179	143	+35 (25.1%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	123	102	+20 (19.5%)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

売上高と各利益項目について、前年との比較となります。

売上高は、LPガス輸入価格が高値で推移する中、民生用、工業用のLPガス販売が伸長するとともに、電力・資源などの価格高騰を背景に、産業ガスや原材料分野で販売単価が上昇しました。

また、新たに3社が連結子会社となった影響もあり、全てのセグメントで売上が増加し、1,162億円、39.1%増収の4,132億円となりました。

売上総利益は、LPガスの市況要因が対前年でマイナス16億円の影響となりましたが、主力商品の販売増に加え、新規に連結子会社が加わった影響もあり、110億円、12.7%増益の981億円となりました。

# 連結経営成績（増益分析）

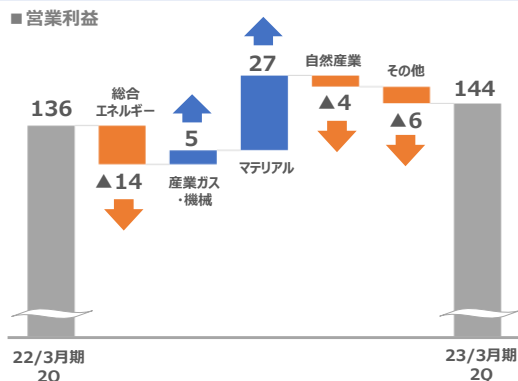
	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額 (増減率)
売上高	4,132	2,970	+1,162 (39.1%)
売上総利益	981	870	+110 (12.7%)
営業利益	144	136	+8 (6.0%)
営業外損益	39	28	+11 (38.5%)
経常利益	184	165	+19 (11.6%)
市況要因を除く 経常利益	179	143	+35 (25.1%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	123	102	+20 (19.5%)

## 増益要因

■ 営業利益は、LPガス市況要因が対前年同期でマイナスとなったものの、主力商品の販売が堅調に推移し、増益

■ 販管費は、販売増に伴う運搬諸掛の増加や、新規連結子会社の影響等により、増加

※すべての利益項目で第2四半期として過去最高益



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

営業利益は、販売増加に伴う物流費の増加、また、新規連結の影響等により、販管費が102億円増加し、6.0%増益の144億円となりました。

営業外損益は、持分法による投資利益などが増加し、11億円の収益改善となり、経常利益は、19億円、11.6%増益の184億円となりました。

結果、四半期純利益は、20億円、19.5%増益の123億円となりました。

## 連結経営成績（セグメント別）

**Iwatani**  
(単位：億円)

	2023/3月期2Q 実績	2022/3月期2Q 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	4,132	2,970	+1,162	+39.1%
■ 総合エネルギー	1,689	1,245	+443	+35.6%
■ 産業ガス・機械	1,079	883	+195	+22.2%
■ マテリアル	1,190	699	+491	+70.2%
■ 自然産業	143	117	+26	+22.7%
■ その他	29	24	+5	+22.7%
営業利益	144	136	+8	+6.0%
■ 総合エネルギー	39	54	▲14	▲27.4%
■ 産業ガス・機械	65	60	+5	+8.8%
■ マテリアル	57	29	+27	+95.3%
■ 自然産業	1	5	▲4	▲71.5%
■ その他・調整額	▲19	▲13	▲6	-
経常利益	184	165	+19	+11.6%
市況要因を除く経常利益	179	143	+35	+25.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	123	102	+20	+19.5%

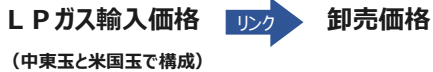
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

6

セグメント別の状況については、全てのセグメントにおいて増収となり、営業利益は、産業ガス・機械事業、マテリアル事業が増益、総合エネルギー事業、自然産業事業が減益となりました。

# LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ）

前提 ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動

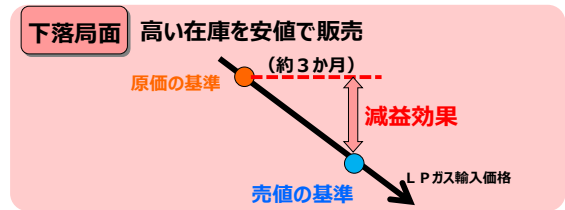
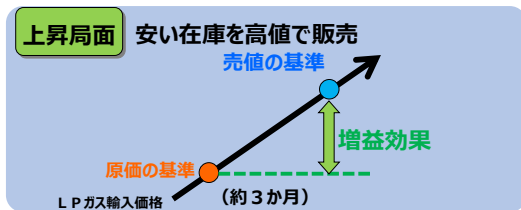


②輸入～販売の期間は約3ヶ月



LPガス輸入価格が変動 → 短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※2



※2 在庫量・販売時期・販売数量によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

LPガスの輸入価格の変動が、業績に与える影響について、説明します。

当社は、LPガスを中東と米国から輸入しており、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格を輸入価格に連動させる価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について「先入先出法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、40日の法定備蓄分を加えた約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。これらの影響を「市況要因」と呼んでいます。



# セグメント別営業利益分析（総合エネルギー事業）

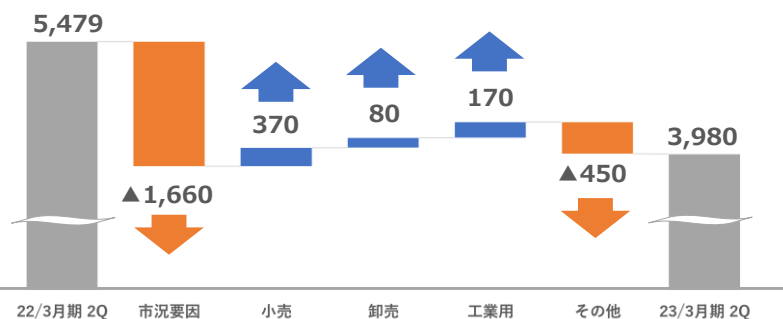
## 決算実績

(単位：億円)

	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	1,689	1,245	+443	+35.6%
営業利益	39	54	▲14	▲27.4%
市況要因除く 営業利益	34	32	+1	+5.2%

## 営業利益増減分析

(単位：百万円)



## 主な営業利益増減要因

### ■市況要因 ▲1,660

(億円)	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	通期 累計
当期	+20.4	▲15.0	+5.3	-	-	-
前期	+11.0	+11.0	+22.0	+49.1	+8.5	+79.7
差異	+9.3	▲26.0	▲16.6	-	-	-

### ■小売 +370

- ・業務用の需要回復
- ・輸入価格上昇に対する販売価格への転嫁

### ■卸売 +80

- ・需要回復により販売増加

### ■工業用 +170

- ・増熱用LPガスの販売増加

### ■その他 ▲450

- ・カセットこんろ・ボンベの売上が伸長
- ・大型設備案件の反動減

当期末の直売顧客数：約110万世帯

総合エネルギー事業は、LPガスの業務用需要が回復し、工業用も増加するとともに、輸入価格上昇に対する、販売価格への転嫁も進みました。なお、当期のLPガス市況要因は、前年同期との比較では16億円のマイナス影響となりました。また、前期の大型設備案件による反動減が発生した結果、営業利益は27.4%減益の39億円となりました。

なお、LPガスの直売顧客数は、今年6月に株式を取得したエネライフが、連結に組み入れられ、9月末時点で110万世帯となり、PLAN23の目標世帯数に到達しました。

# セグメント別営業利益分析（産業ガス・機械事業）

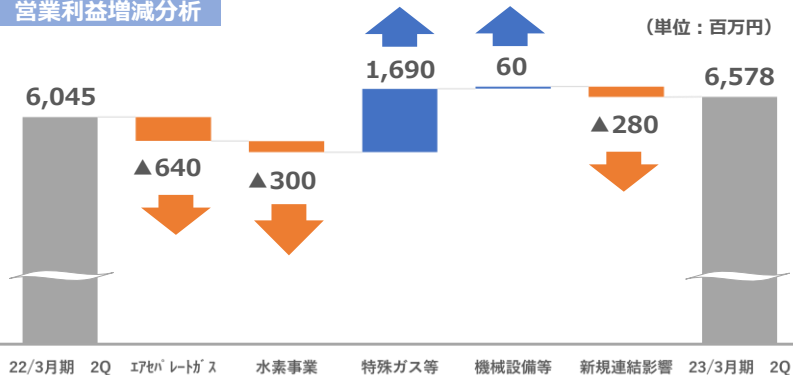
## 決算実績

(単位：億円)

	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	1,079	883	+195	+22.2%
営業利益	65	60	+5	+8.8%

## 営業利益増減分析

(単位：百万円)



## 主な営業利益増減要因

- **エアセパレートガス ▲640**
  - ・自動車業界向けを中心に販売減少
  - ・電力料金上昇による製造コストの増加
- **水素事業 ▲300**
  - ・液化水素の販売伸長
  - ・電力料金上昇による製造コストの増加
  - ・水素ステーションの増設に伴う運営費用の増加
- **特殊ガス等 +1,690**
  - ・ヘリウムの安定調達及び安定供給
  - ・市況高騰のなか半導体ガスの販売伸長
- **機械設備等 +60**
  - ・半導体関連機器の販売が堅調
- **新規連結影響 ▲280**
  - ・新規連結の影響による一時的な費用の発生

＜電力・LNG料金上昇の影響＞  
前年同期比 +約1,400百万円

産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスに関しては、中国のロックダウンなどの影響により、自動車関連業界向けを中心に、販売数量が減少したことに加えて、電力料金の上昇により製造コストが増加しました。

水素事業については、水素ガスの販売は好調に推移していますが、水素ステーションの増設に伴い費用が増加しました。

特殊ガスについては、半導体ガスの販売が伸長するとともに、ヘリウムは世界的な需給ひっ迫により市況が上昇する中で、安定供給に努めました。結果、営業利益は8.8%増益の65億円となりました。

# セグメント別営業利益分析（マテリアル事業）

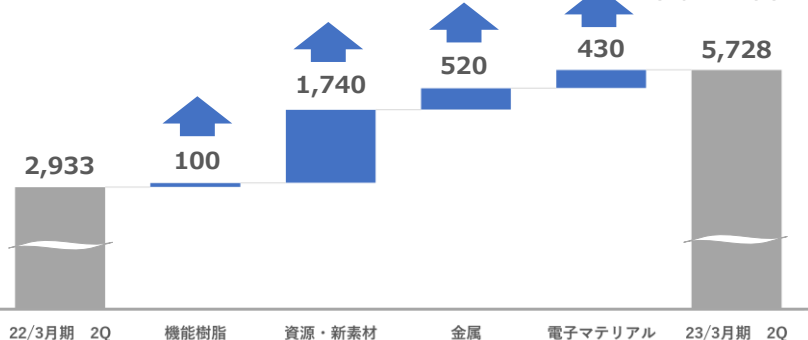
## 決算実績

(単位：億円)

	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	1,190	699	+491	+70.2%
営業利益	57	29	+27	+95.3%

## 営業利益増減分析

(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 主な営業利益増減要因

- 機能樹脂 +100
  - ・低環境負荷PET樹脂の販売増加
- 資源・新素材 +1,740
  - ・ミネラルサンドの市況が高騰する中、安定供給を確保
- 金属 +520
  - ・ステンレスの新規顧客への販売伸長
- 電子マテリアル +430
  - ・次世代自動車向け二次電池材料の新規顧客への販売増加

マテリアル事業は、お客様の脱炭素への関心が高まる中、次世代自動車向け二次電池材料や、低環境負荷PET樹脂など、環境商品の販売が着実に拡大しました。

ミネラルサンドに関しましては、サプライチェーンの混乱により市況が高騰する中、安定供給に努めたことで増収増益となりました。

ステンレスは、新規顧客への販売が伸長した結果、営業利益は、95.3%増益の、57億円となりました。

# セグメント別営業利益分析（自然産業事業）

## 決算実績

(単位：億円)

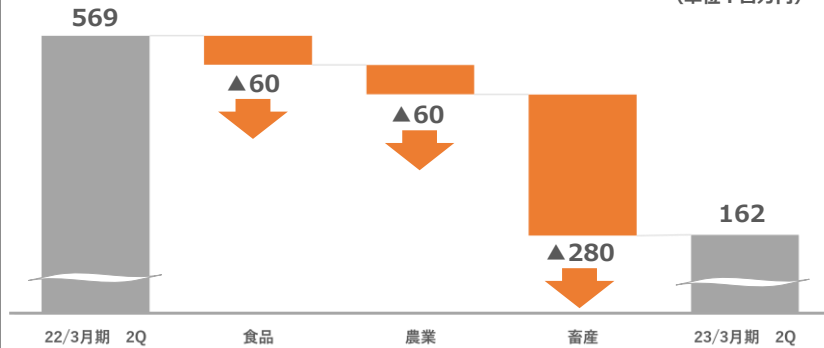
	2023/3月期 2Q 実績	2022/3月期 2Q 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	143	117	+26	+22.7%
営業利益	1	5	▲4	▲71.5%

## 主な営業利益増減要因

- 食品 ▲60
  - ・業務用冷凍食品及び一般消費者向け商品の販売増加
  - ・仕入コストや物流費等の高騰による収益性低下
- 農業 ▲60
  - ・農業設備案件の減少
- 畜産 ▲280
  - ・種豚販売頭数の減少
  - ・飼料価格の高騰による収益性低下

## 営業利益増減分析

(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

自然産業事業は、業務用や、一般消費者向けの冷凍食品の販売が増加したものの、仕入コストや物流費などが増加しました。また、農業設備の販売は低調に推移し、畜産分野は飼料価格の高騰により収益性が低下しています。結果、営業利益は71.5%減益の1億円となりました。

## 貸借対照表（連結）

Iwatani

- 棚卸資産や売上債権の増加のほか、買収に伴い発生したのれん等の影響により総資産は増加。
- 買収資金として200億円の社債発行、市況高騰による運転資金増加等により有利子負債が増加。

(単位：億円)

	2022年 9月末	2022年 3月末	前期末比 (増減額)	主な増減理由・備考
流動資産	3,043	2,594	+449	棚卸資産や売上債権の増加
（有形固定資産）	2,009	1,857	+151	新規連結子会社影響、 水素ステーション建設やLPGセンターへの投資
（無形固定資産）	326	161	+164	新規連結子会社影響（のれん）
（投資その他の資産）	1,000	970	+29	
固定資産	3,336	2,990	+346	
総資産	6,380	5,584	+795	
（流動負債）	2,150	1,863	+287	短期借入金の増加
（固定負債）	1,292	918	+373	長期借入金の増加
負債	3,443	2,781	+661	有利子負債 1,644億円 有利子負債依存度 25.8%
（自己資本）	2,829	2,701	+128	自己資本比率 44.3%
（非支配株主持分）	107	101	+5	
純資産	2,936	2,803	+133	
負債・純資産	6,380	5,584	+795	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

12

主な財政状態について、説明します。

9月末の総資産は、前期末比で795億円増加し、6,380億円となりました。自己資本は、利益剰余金の増加などから128億円増加し、2,829億円となり、自己資本比率は44.3%となりました。

一方、有利子負債は、運転資金の増加およびM&Aの影響により、前期末比で532億円増加し1,644億円となり、有利子負債依存度は、25.8%となりました。

# キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

■ 営業キャッシュ・フローは5億円の支出。投資キャッシュ・フローは、積極的な投資等により350億円の支出となり、結果、フリーキャッシュ・フローは355億円の支出。

(単位：億円)

	2023年3月期 中間実績	2022年3月期 中間実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	▲5	24	▲29
投資キャッシュ・フロー	▲350	▲157	▲192
フリー・キャッシュ・フロー	▲355	▲133	▲221
財務キャッシュ・フロー	366	10	+355
換算差額等 ※1	24	9	+15
現預金等の増減額 ※2	35	▲113	+149
現預金等の期首残高	295	384	▲88
現預金等の期末残高	330	270	+60

※1 「換算差額」(連結の範囲の変更に伴う増減額)「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

キャッシュフローについて、説明します。

営業キャッシュフローは、売上債権や棚卸資産の増加などにより5億円の支出、投資キャッシュフローは、エネライフとトキコシステムソリューションズの株式取得などがあり、350億円の支出となりました。結果、フリーキャッシュフローは、マイナス355億円となりました。

財務キャッシュフローについては、借入金の増加などにより366億円の収入となり、結果、現預金は35億円増加しました。

## 2023年3月期 通期業績予想

# 2023年3月期の通期業績予想

**Iwatani**  
(単位：億円)

	2023年3月期 修正予想	2023年3月期 期初予想	増減額	増減率 (%)	想定レート
売上高	8,400	8,030	+370	+4.6%	・期初予想からの変更：あり  (上期実績) 為替 128.8円/\$ L Pガス輸入価格 783 \$ /ト> *2022年3月-9月平均  (下期想定) 為替 120円/\$ ⇒ 140円/\$  L Pガス輸入価格 750 \$ /ト> ⇒ 630 \$ /ト>
■ 総合エネルギー事業	3,478	3,592	▲114	▲3.2%	
■ 産業ガス・機械事業	2,282	2,282	±0	0%	
■ マテリアル事業	2,290	1,806	+484	+26.8%	
■ 自然産業事業	307	307	±0	0%	
■ その他	43	43	±0	0%	
営業利益	400	350	+50	+14.3%	
■ 総合エネルギー事業	167	156	+11	+7.1%	
■ 産業ガス・機械事業	141	134	+7	+5.2%	
■ マテリアル事業	114	82	+32	+39.0%	
■ 自然産業事業	11	11	±0	0%	
■ その他・調整額	▲33	▲33	±0	-	
経常利益	465	410	+55	+13.4%	配当予想  2023年3月期 85円/株
市況要因を除く経常利益	459	410	+49	+12.1%	
親会社株主に帰属する当期純利益	300	265	+35	+13.2%	

※2022年11月9日公表

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

2023年3月期の連結業績予想は、11月9日に上方修正をしています。

売上高は 8,400億円

営業利益は 400億円

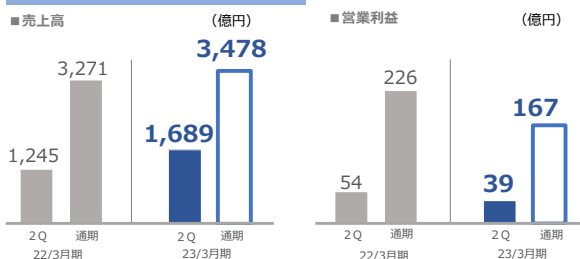
経常利益は 465億円

当期純利益は 300億円としています。

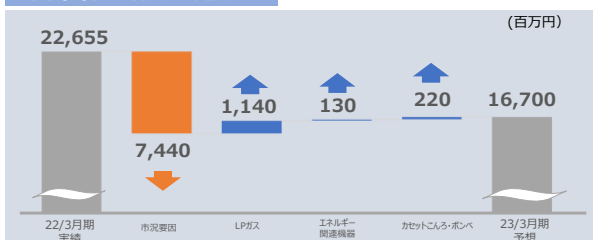


# 総合エネルギー事業の見通し

## 売上高・営業利益の進捗



## 営業利益増減見直し



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 通期業績予想の達成に向けて

- ・**市況要因**
  - ・ 上期実績+5.3億円、下期0億円。対前年で▲74億円の影響。
- ・**LPガスの拡販**
  - ・ 全国ネットワークを活用したM&A推進による直売顧客数の拡大。
  - ・ 燃料転換の推進や、増熱用LPガスの拡販を強化。
- ・**エネルギー関連機器の拡販**
  - ・ 半導体不足等による主要商品の納期遅延は解消傾向。
- ・**カートリッジガス事業の拡大**
  - ・ 中国での原材料価格上昇分の転嫁による収益改善。
  - ・ 東南アジア、米国での拡販を強化。

## 業績が変動する主な要因

- ・LPガス輸入価格、為替の変動
- ・気温変動による民生用LPガス販売数量への影響

総合エネルギー事業は、売上高は3,478億円で6.3%の増収、営業利益は167億円で26.3%の減益を予想しています。

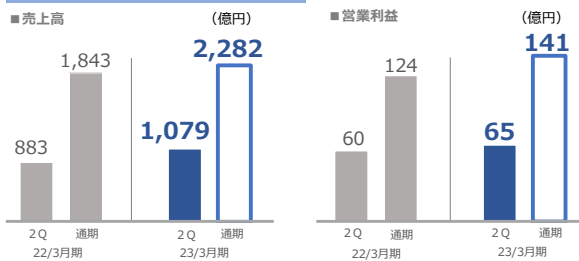
予想業績における市況要因の影響は、上期は実績としてプラス5億36百万円、下期は見込んでいません。昨年度は、プラス79億円の市況要因があり、市況要因を除く営業利益では161億円、10.1%の増益となります。

エネルギー事業においては、今後もLPガス直売顧客数の拡大に向けて、M&A案件に取り組むと共に、ガス関連機器やLPガス非常用発電機などを、拡販していきます。

カートリッジガス事業においては、アウトドア商品や暖房商材などの拡販を行います。また、中国に加え、東南アジアや米国での海外展開を加速していきます。

# 産業ガス・機械事業の見通し

## 売上高・営業利益の進捗



## 営業利益増減見通し



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 通期業績予想の達成に向けて

- エアセパレートガスの適正な価格転嫁と拡販**
  - 電力料金の上昇に伴う製造コスト増加は下期も続く見通し。
  - 半導体不足の解消によるユーザーの工場稼働率上昇とともに、拡販を強化。
- 液化水素の適正な価格転嫁と新規需要創出**
  - 電力料金やLNG価格の高騰による製造コスト増加は下期も続く見通し。
  - 産業用に加え、実証用等の新規需要開拓を積極的に推進。
- 特殊ガスの事業拡大**
  - ヘリウムの需給がタイトな状況が継続するが、安定供給に注力。
  - 炭酸ガス、半導体ガス等の拡販を強化。
- 機械設備の拡販**
  - 自動車業界減産により関連産業も影響を受けており、先行き不透明な環境。
  - 半導体関連等成長分野向けの販売を強化。

## 業績が変動する主な要因

- 電力料金・LNG市況上昇による製造コストへの影響  
(影響額見通し：前年比 約3,200百万円)
- 製造業の生産動向

産業ガス・機械事業は、売上高は2,282億円で23.8%の増収、営業利益は141億円で13.1%の増益を予想しています。

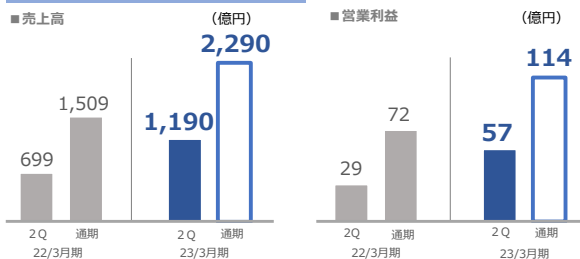
下期も、電力料金やLNG価格の上昇に伴い、製造コストは増加する見通しであり、エアセパレートガスと水素の適正な価格転嫁に継続して取り組んでいきます。

特殊ガスについては、ヘリウムは需給がひっ迫する見通しですが、カタールと米国を中心とする供給ソースを活かして、引き続き安定供給に注力してまいります。合わせて、炭酸ガス、半導体ガスなどの拡販にも取り組んでいきます。

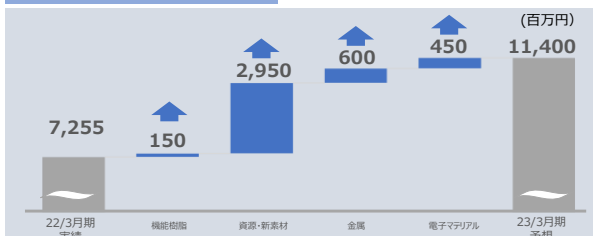
また、機械設備については、自動車業界の減産の影響が懸念される中、半導体関連など成長分野を中心に販売を強化していきます。

# マテリアル事業の見通し

## 売上高・営業利益の進捗



## 営業利益増減見通し



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 通期業績予想の達成に向けて

- ・資源事業の拡大
  - ・下期も安定調達・安定供給に注力。
- ・環境商品（低環境負荷PET樹脂・バイオマス燃料・二次電池材料）の拡販
  - ・低環境負荷PET樹脂は需要増への対応。
  - ・バイオマス燃料の安定調達。
  - ・次世代自動車向け二次電池材料の安定調達。
- ・海外金属加工事業の強化
  - ・東南アジア・中国のエアコン向けを中心に拡販。

## 業績が変動する主な要因

- ・資源市況の変動
- ・為替変動

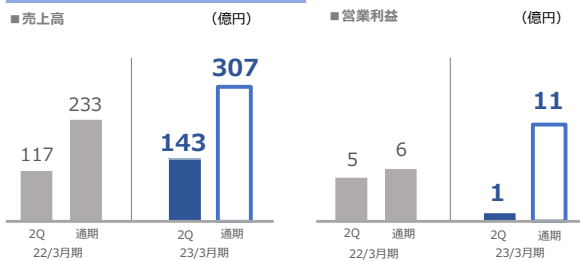
マテリアル事業は、売上高は2,290億円で51.7%の増収、営業利益は114億円で57.1%の増益を予想しています。

資源事業については、世界的な供給リスクに加え、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、中国を含めた世界経済の減速などが、懸念される中、お客様の動向に注視しながら安定供給に注力していきます。

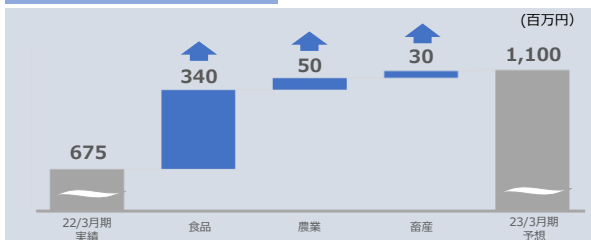
また、低環境負荷PET樹脂やバイオマス燃料、次世代自動車向けの二次電池材料といった環境商品の拡販にも取り組んでいきます。

# 自然産業事業の見通し

## 売上高・営業利益の進捗



## 営業利益増減見通し



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

## 通期業績予想の達成に向けて

- 業務用および一般消費者向け冷凍食品の拡販**
  - インバウンド再開による外食需要の回復に伴い拡販強化。
  - 原材料や物流費などコスト上昇分の価格転嫁により、収益性の改善。
- 種豚の拡販**
  - 種豚の販売増加により、収益確保。
  - 飼料価格や電力料金等のコスト上昇懸念は継続の見通し。
- 農業・畜産設備の拡販**
  - 案件の積み重ねによる設備販売の強化。
  - 資材や飼料価格上昇により、事業者の投資控えは継続する見通し。

## 業績が変動する主な要因

- 為替変動
- 原材料価格変動
- 天候不良

自然産業事業は、売上高は307億円で31.3%の増収、営業利益は11億円で62.8%の増益を予想しています。

食品事業については、外食需要の回復に伴う業務用の拡販とともに、一般消費者向け商品にも引き続き取り組んでいきます。また、原材料や物流費などのコスト上昇分の価格転嫁にも、お客様のご理解を得ながら、進めていきます。

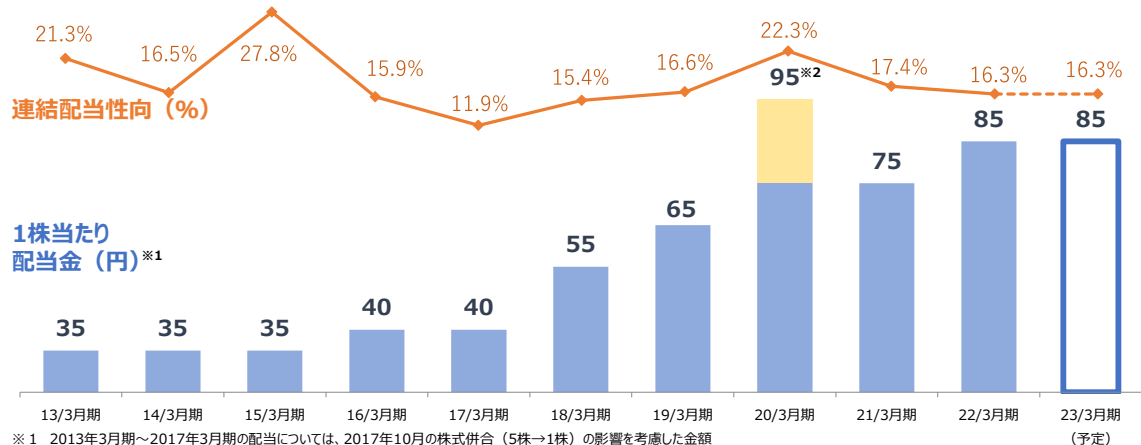
農業、畜産分野においては、飼料価格や電力料金などのコスト上昇分を、確実に転嫁できるよう取り組んでいきます。

# 株主還元について

▶ 2023年3月期は、1株あたり85円の配当を予定。

## 配当方針

- ・ 継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・ 業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



※ 1 2013年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額

※ 2 うち記念配当20円含む

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

株主還元について、説明します。

2023年3月期の配当につきましては、現段階では、期初に公表しました通り、継続的かつ安定的な配当を行うとの基本方針に基づき、前年と同じく1株あたり85円を予定しています。

今後も、業績や経営環境を考慮しながら、適正な利益還元を検討・実施していきます。

# 成長戦略

## ▶ PLAN23の方針を基に、経営目標達成に向けて着実に進行

テーマ	基本戦略
水素エネルギー社会の実現に向けて ～ 事業の枠組みを超えた挑戦 ～	1. 脱炭素社会に向けた取組み強化 2. エネルギー総合サービス事業者への進化 3. 海外事業の拡大
基本方針	
「脱炭素社会に向けた戦略投資の強化」と「デジタル化の推進」	

経営指標	項目	2021年度 実績	2022年度 見通し	PLAN23 目標値
	経常利益 [市況要因除く]	464億円 [384億円]	465億円 [459億円]	400億円
	ROE (自己資本利益率)	11.7%	—	9%以上

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

当社は、中期経営計画「PLAN23」の基本方針である「脱炭素社会に向けた戦略投資の強化」に沿った取り組みを進めています。

経営数値目標である経常利益400億円、ROE9%以上に対しては、今年度の経常利益見通しは465億円と一年前倒しで達成し、ROEについても10%を上回る見通しです。

# PLAN23における投資実績

## ▶ 3年間累計1,500億円の目標を掲げ、積極投資を実行

### PLAN23 成長投資目標と進捗

2021年度実績

400億円

2022年度通期計画

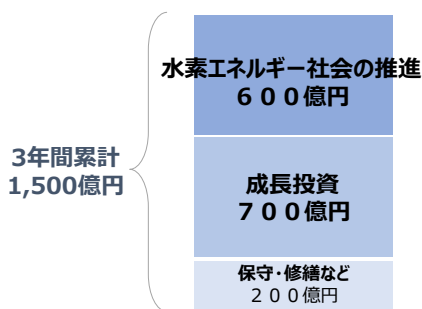
770億円

(第2四半期実績 404億円)

2023年度  
計画

3年間累計

1,500億円



#### 主な投資実績 ※2022年度内出資予定を含む

- JHyM出資等の水素ステーション建設関連(2021-2022)
- トキコシステムソリューションズ株式購入(2022)
- エネライフ株式購入(2022) 総合エネルギー
- 国内外での産業ガス製造プラント増設(2021-2022) 産業ガス・機械
- 岩谷オーストラリア 鉱区開発(2021-2022) マテリアル
- ユー・エム・システム株式購入(2021) 自然産業
- ルディック・マイニング社 チタン鉱石権益確保(2022) マテリアル

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

PLAN23の投資については、3年間累計で1,500億円を計画しています。2021年度実績は400億円、今年度は770億円の計画に対して第2四半期で既に404億円の実績となり、成長に向けて積極的な投資を行っています。



## ▶ 2022年度の主な成長投資実績

■ 成長に繋がる大型M&Aを実施。

### トキコシステムソリューションズ(株)株式取得

#### ✓メーカー・エンジニアリング機能の強化

- ・ 投資額：約168億円
- ・ エネルギー・水素事業のシナジー効果

#### 【主な事業内容】

- エネルギーステーション建設事業
- エンジニアリング事業
- 環境事業
- 保守サービス事業
- 医療機器事業



トキコシステムソリューションズ(株)各種デイスンサー

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

### (株)エネライフ (旧：東京ガスエネルギー(株)) 株式取得

#### ✓関東・首都圏地域のLPガス直売強化

- ・ 投資額：約54億円
- ・ LPガス安定供給および物流合理化

#### 【主な事業内容】

- LPガス卸販売
- LPガス直売
- 自動車用LPガスの販売



出所：(株)エネライフHP

2022年度の投資案件に関しては、4月にトキコシステムソリューションズの株式を100%取得しました。

流体を計測・制御する技術を中心に、メーカー・エンジニアリング機能を有しており、エネルギー事業や水素事業と連携して、事業拡大を図ります。

また、6月には、東京ガスグループのLPガス関連会社の株式を取得し、社名を「エネライフ」にしました。

関東・首都圏地域において、集中的に事業展開している「エネライフ」が当社グループに加わることで、グループの事業合理化を進め、収益性を高めていきます。

投資資金の調達に関しましては、昨年度に発行したグリーンボンドに続き、200億円の社債を発行しました。

## ▶ 2022年度の主な成長投資実績

■ 海外投資案件も戦略的に展開。

### ノルディック・マイニング社への出資

✓ 希少資源である高純度チタン鉱石の権益確保

- ・ 投資額：約26億円
- ・ 供給ソース多様化、安定供給体制の強化

### 産業ガス製造プラント増設

✓ 製造・充填工場の新設による海外事業拡大

- ・ エアセパレートガスプラントの増設、  
産業ガス充填拠点の新設等による機能拡充



採掘鉱区（予定）



嘉興岩谷気体会社 空気分離装置（ASU）



大連岩谷気体機具会社 窒素液化装置

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

25

希少資源の一つである、高純度チタン鉱石の権益を有するノルディック・マイニング社に出資することが決まりました。

これにより、ノルウェーの新規プロジェクトから採掘される高純度チタン鉱石の予定生産量の約60%、年間2万トンの権益を確保しました。

今回の権益獲得により、既存の豪州と合わせ二拠点での供給体制となり、更なる安定供給が可能となります。

またノルウェーは、電源構成のうち、再生可能エネルギーの占める割合が高く、よりグリーンなチタン鉱石とも言え、低炭素な商品としてお客様にアピールしていきます。

産業ガス事業では、国内外で、産業ガスの製造プラントや供給体制の増強に向けた投資を継続しています。

中国とインドネシアでは、エアセパレートガスプラントの増設を進め、シンガポールにおきましては産業ガスの充填拠点を新設し、特殊ガスの充填など機能拡充をすべく準備を進めています。

# 「脱炭素社会の実現」に向けた取り組み

## ▶ 液化水素サプライチェーンの構築に向けて

- 「液化水素サプライチェーンの商用化実証」の推進
- 2022年度 第2四半期 液化水素新規顧客 9 件（第2四半期として過去最高、水素実証案件含む）
- 大型モビリティ向けなど、実証用途の水素供給が拡大

### 日本水素エネルギー(株)への出資

- ・ グリーンイノベーション基金事業  
「液化水素サプライチェーンの商用化実証」  
推進主体への出資及び人員派遣



### 水素需要の創出

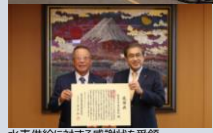
- ・ 事業活動の脱炭素化など  
実証用途のニーズ拡大
- ・ 水素ハイブリッド電車や水素燃料電池船など  
大型モビリティ向け需要拡大



H2 KIBOU FIELD (パナソニック草津拠点)  
出所：パナソニック株式会社プレスリリース (2022年4月15日)



水素ハイブリッド電車「HYBARI」



水素燃料電池船（完成イメージ）

水素供給に対する感謝状を受領

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

水素関連の取り組みについて、説明します。

まず、グリーンイノベーション基金事業に採択されました「液化水素サプライチェーンの商用化実証」の推進主体となる、日本水素エネルギー株式会社への出資を決定しました。液化水素運搬船や基地設備の建設に向けて、川崎重工業やENEOSなど、プロジェクトに参画している各社と連携し、詳細な事業性調査を進めていきます。

液化水素の新規獲得件数は今年度9件と、第2四半期として過去最高となりました。従来の使用用途に加え、水素を脱炭素に活用する実証用途のお客様が 증가しています。これまでの実績としては、純水素型燃料電池や太陽光発電を活用し、事業活動で消費するエネルギーを100%再生可能エネルギーで賄う、パナソニック草津工場向けや、JR東日本が2030年の実用化を目指す、国内初の水素ハイブリッド電車「HYBARI (ひばり)」の開発に向けた水素供給が挙げられます。

また、当社としても、大阪・関西万博での商用化を目指し、水素燃料電池船の建造に着手しています。

引き続き、新たな需要の創出を図り、液化水素サプライチェーンの商用化に向けた、基盤強化を進めていきます。

## ▶ 水素アプリケーションの開発

- 燃料電池トラック等へ短時間で水素を供給する、大流量充填技術開発
- 水素切断機を始めとする、お客様の脱炭素化を支援する用途開発

### トキコシステムソリューションズ(株) 水素先端技術センター

- ・ 大型商用車向け水素充填設備の開発
- ・ 液化水素サプライチェーンに必要な計装製品の開発検討



水素先端技術センター（2022年9月1日運用開始）

水素ディスペンサー

### 水素切断機等、製造プロセスへの水素活用

- ・ 水素ガスを使用して鋼板を切断する「水素切断機」の販売を開始
- ・ 更なる用途開発、及び脱炭素に取り組む企業への提案



水素切断機

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

27

水素アプリケーションの開発に関して、説明します。

トキコシステムソリューションズでは、9月に水素先端技術センターを竣工し、燃料電池トラックなどへ短時間で水素を供給する大流量の充填装置など、先端技術の開発に取り組んでいます。

当社は、日米において水素ステーションの建設を推進しており、バスやトラックといった商用車用のディスペンサーなどに用いられる充填設備の開発を、トキコシステムソリューションズと岩谷水素技術研究所など、グループ企業が協業しながら、進めています。

また、水素を利用した低炭素、脱炭素への取り組みに関心が高まる中、鋼板を切断する機械でアセチレンやLPガスの代わりに水素を使用する切断機の販売を開始しました。水素を使用することで切断時のCO<sub>2</sub>排出がゼロとなり、お客様のCO<sub>2</sub>削減に貢献できます。

今後も、これまでに培った知見、技術力を活用して、さまざまな水素の用途開発を進めていきます。


# 「脱炭素社会の実現」に向けた取り組み

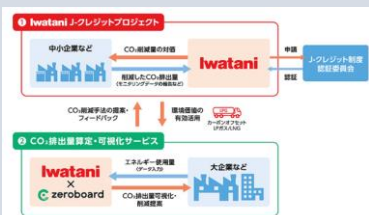
## ▶ 脱炭素ビジネスの拡大

■ 2050年脱炭素社会の実現に向け、ガス&エネルギーの分野を中心に取り組みを推進

### Iwatani J-クレジットプロジェクト

✓ サプライチェーン全体のCO2排出量の可視化・削減量のクレジット化を進める

▶  J-クレジット制度 を活用しオフセットガスを供給



### 岩谷オーストラリア会社 植林事業へ参画し、カーボンクレジット取得へ

✓ ミネラルサンド業界において、カーボンニュートラルへの取り組みを開始

▶ 豪州カーボンクレジット（ACCUs）を取得し、自社のCO2排出量との相殺や豪州国内での脱炭素ビジネスに繋げる



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

脱炭素ビジネスの取り組みを説明します。

この度、国のJ-クレジット制度を活用し、当社のお客様で重油からLPガスやLNGへと燃料転換を行い、削減されたCO2排出量を価値化する取り組みを進め、当社として初のJ-クレジットを創出しました。

このクレジットを活用し、カーボンオフセットLPガス・LNGの販売を開始しており、すでに複数の取引先から受注・引き合いを戴いています。

また、鉱物資源事業を行っている豪州において、カーボンクレジットの創出に向けた植林事業を行うことを決定しました。今後、豪州での脱炭素ビジネスの拡大や、当社グループのCO2排出量との相殺など、さまざまな活用を検討していきます。

今後も、国内外を問わず、脱炭素を始めとした社会課題の解決を通じて、当社事業の持続的な成長につながる取り組みを進めていきます。

## ▶ 統合報告書2022の発行

■ イワタニグループは事業を通じて環境問題などの社会課題の解決に取り組み、社会に対し新たな価値を提供し、自らも持続的に成長していくことを目指しています。

### イワタニの 価値創造プロセス

・ イワタニグループの事業資本を基に、社会的価値を創造するストーリー

### 価値創造に繋がる イワタニの主要な資本

・ 価値創造の源泉となる6つの主要な資本

### 社長インタビュー

・ 社長が語る中長期ビジョン

### 持続可能な成長に向けた 取組み

・ 重要課題（マテリアリティ）・SDGsの  
主な取組み



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

29

当社の統合報告書について、紹介します。

機関投資家の皆さまを始め、国内外のステークホルダーに対して、当社グループのESGへの取り組みや、中長期的な成長戦略を理解いただくために発行しています。

当社グループが所有する様々な資本を基に、社会的価値を創造していく「価値創造プロセス」や、持続可能な成長に向けた重要課題である、SDGsの取り組みなどを掲載しています。是非、ご覧下さい。

# Iwatani

<お問合せ先>

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL : 06-7637-3470 FAX : 06-7637-3333

Webサイト : <https://www.iwatani.co.jp>

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.